



# 長崎ESTステークホルダー会議塾





塾長 杉山 和一

### ■ 塾の目的 ■

ESTとは、Environmentally Sustainable Transportの略で、持続可能な交通という意味です。また、ステークホルダー（stakeholder）とは利害関係者のことです。私たちの塾では、地球温暖化やエネルギー問題を考えるとき、2050年の長崎市域における交通像はどうあるべきかという認識を、参加したステークホルダー間で共有し、その上で今から10年後の長崎市域の交通システムとそれを実現するための施策について議論することを目的としています。そして、その結果を市民に公表するとともに、一般市民を巻き込んで幅広い議論を展開しました。

### ■ 塾活動の経過 ■

私たちの塾は、これまで約2年間活動を行ってきました。前年度は2007年5月から2008年2月まで合計10回の定例会を開催し、地域における交通の状況や交通に起因する二酸化炭素の排出状況などに関する勉強会を行うとともに様々な議論を重ねてきました。また、2007年10月19日に開催された第4回長崎ESTステークホルダー試行会議の運営に参加し、ワークショップ形式の試行会議を実際に体験しました。さらに、2008年3月には28名の塾生が参加し、熊本市の路

面電車の利用状況をはじめとする都市交通システムの先進的な取組状況を視察しました。この機会に、熊本市の交通行政や環境行政に関わる職員および市民団体の代表者と地域交通に関する様々な議論を交わすこともできました。

2008年度には2月までに合計10回の定例会を開催し、ESTに関する情報提供を行い、それに基づいて塾生同士で様々な議論を交わしました。2008年5月に開催された第1回定例会では、まず長崎ESTステークホルダー会議の趣旨説明が行われ、その内容に関して質疑が行われました。また、年間の活動方針および塾活動の役割分担について話し合われました。6月の第2回定例会では、塾のホームページ開設に関して具体的な話し合いがなされました。また、ESTに関する情報提供が行われ、これに基づき議論が交わされました。7月には第3回定例会が開かれました。この中で、長崎市における交通起源の二酸化炭素排出量に関する情報や富山ライトレール・広島電鉄の収支状況に関する情報が提供されました。8月に開催された第4回定例会では、関庄一郎長崎税関長を招き、「最近の環境行政雑感ー環境省での経験からー」というタイトルで講演していただきました。また、9月の第5回定例会では、12月に「長崎ESTステークホルダーフォーラム」を開催することが承認され、フォーラムの企画について討議が行われました。

その後、12月に開催する「長崎ESTステークホルダーフォーラム」に向けて、10月および11月に1回ずつEST模擬フォーラムを行い、塾生間でフォーラムの内容を実際に体験しました。さらに、12月に2回定例会を開催し、フォーラムの企画・準備、ス

テークホルダーの選定・依頼、会場関係の手配などの、フォーラムの開催に向けた様々な準備を行いました。

2008年12月20日に、「長崎 EST ステークホルダーフォーラム」を長崎大学総合教育研究棟多目的ホールで開催しました。このフォーラムの目的は、様々な立場の長崎市民によって将来の長崎の交通のあるべき姿について議論し、それを実現するための政策を提言としてまとめることです。参加していただいたステークホルダーは、公的セクター5名、企業セクター9名、市民セクター12名の合計26名です。このフォーラムによって、50年後の長崎都市圏における交通のあるべき姿を実現するために、今後10年間に実施することが必要な政策を提案することができました。フォーラム終了後、2009年1月から2月にかけて定例会を3回実施し、塾活動の成果およびフォーラムの成果を取りまとめるための話し合いを行いました。



定例会議の状況

#### ■長崎 EST ステークホルダーフォーラム提言■

長崎 EST ステークホルダーフォーラムでは、まず交通問題について50年後の長崎のまちの姿を描きだし、さらにそのようなまちを実現するために今後10年間に実現しなければならない対策は何かについて議論しました。

50年後の将来のまちの姿は以下の7項目に集約されました。

1. あらゆる機能を身近に提供できるまちづくり
2. 目的に応じた公共交通機関の充実
3. 長崎のまちづくりにおける船（舟運）の活用促進
4. 外から人が来たいと思うような魅力ある交通システムを持ったまちづくり
5. 交通モードの変革による物流を含めたエネルギー源の大胆な脱化石化
6. 所有から所持へ
7. 皆が納得できるようなまちづくりプロセスの形成

そして、その対策とは・・・

当成果報告書の本文中に提言の内容を詳しく記載しております。

是非ご一読ください。

## 長崎ESTステークホルダーフォーラム

### 1. フォーラムの目的

今回フォーラムを開催した目的は、市民によって将来の長崎の交通システムについて議論し、今後10年以内に必要な政策について提言をまとめることです。

議論のテーマは、気候変動問題を念頭において、「長崎の地域交通システムに対する長期的な視点を踏まえた対策や政策」としました。ここでいう長期的な視点とは、2050年を目標に二酸化炭素を50%から60%削減できた社会像と定義し、対策や政策とは今後10年のあいだに実現すべきものであると規定しました。

### 2. バックキャスティング手法の適用

本フォーラムにおいては、バックキャスティング手法を用いました。バックキャスティングとはスウェーデンのカール・ヘンリック・ロバール（Carl-Henrik Robert）博士が提唱している将来の社会の予測に際して適用される考え方で、OECDが環境問題の観点からEST（環境的に持続可能な交通）のあり方の中で適用しています。

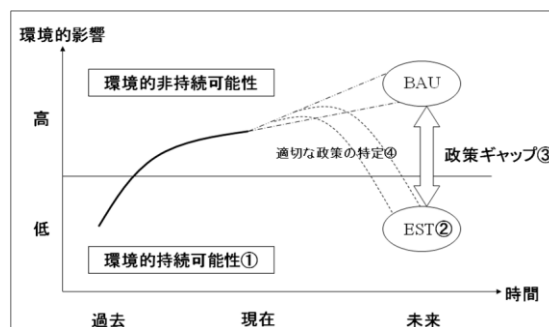
環境的に持続可能な交通の実現のためには、過去の状況の変化から将来の状況を予測した上で、これから行うべき政策を検討するのではなく、将来どの程度地球温暖化ガスを削減するかをあらかじめ目標値として定め、その水準を達成するために今から何をすべきかを考えることが必要です。

つまり、私たちが求める将来像をまず明確にし、「BAU（Business as Usual：何も手を打たず、従来通りの状況）によりもたらされる将来」と「求める将来像」とのギャップを

埋めるために必要な革新的な政策を得るためには、バックキャスティング手法を採用することが求められます。

下図にバックキャスティングのイメージを示します。

まず、①は過去から現在にいたる環境の状況を示しています。②は将来の環境水準のあるべき姿を、③は過去から現在までの環境の傾向を将来に延長した場合の環境水準と②とのギャップを示しています。また、④は両者のギャップを埋めるために必要な政策を特定することが必要であることを表しています。



バックキャスティングのイメージ

### 3. フォーラムの参加者と役割

本フォーラムにはステークホルダー（Stakeholder）、ファシリテーター（Facilitator）および会議を運営するための事務局が参加し、それぞれの役割を果たしました。

#### ① ステークホルダー（Stakeholder）

ステークホルダーとは、交通問題や環境問題に何らかの利害を持ち、関心を持っている人々のことです。これらの人々は、交通行政や環境行政に関わっている公的セクター、バス会社やタクシー会社のような交通関係の事業者や電気・ガス会社のようなエネルギー供給者、大規模事業者等の企業セクター、環境

NGO や環境に興味のある一般市民のなどの市民セクターの3つの集団によって構成されています。

今回ステークホルダーとして参加を依頼したのは、以前実施した長崎 EST ステークホルダー試行会議に参加していただいた人が中心になりました。その理由としては、これらのステークホルダーは、長崎市における EST に対する関心が非常に高く、地域の将来について熱心に議論を行っていただくことが期待できる点があげられます。また、これらのステークホルダーは試行会議の際に将来像作りに参加しているため、本フォーラムに与えられた一日という限られた時間の中で中身の濃い議論をすることができると判断されました。ただし、ステークホルダーの人数を確保するために、新たに数名の人々を運営事務局において追加選定しました。

フォーラムにおいて、ステークホルダーは自分が所属している組織・団体の利害を反映させるような発言をするのが望ましいが、組織・団体としての見解に縛られることなく個人としての立場で議論に参加していただくよう要請しました。

## ② ファシリテーター (Facilitator)

ファシリテーターとはグループ討論の円滑かつ活発な進行のための進行役を担当する人物です。参加者間で発言機会の偏ることの無いように、議論の内容には中立の立場をとり、議論が冷静かつ活発に行われるように促す役割を与えられています。

## 4. フォーラムのプロセス

今回フォーラムを開催するにあたり、長崎市民による提言をまとめることを目的としたので、市民代表としての正当性を確保するた

めに市民参加型のステークホルダーフォーラムを行いました。このため、参加を依頼したステークホルダー以外にも、広くフォーラムの参加者を募集しました。参加者の募集方法としては、フォーラムを主催する長崎 EST ステークホルダー会議塾のホームページ上に応募フォームを掲載し、長崎市民全般に向けてステークホルダーを公募するという方法をとりました。公募した結果、残念ながら応募はゼロでしたが、市民に対してフォーラムへの参加を呼び掛けました。

今回のフォーラムでは、会議の日程が1日だけしかとれなかったために、短い時間で提言にまでもっていくスケジュールを組みました。したがって、フォーラム当日に資料を読んで考える作業を事前に行っていただくために、参加者に対して事前に紙資料を郵送し、その内容を踏まえた上でバックキャストによる長期的視点からの政策案の提出を行っていただきました。

さらに、政策案を「長崎の地域交通システムに対する長期的な視点を踏まえた対策や政策」として提言に加える項目の選択を行っていただきました。選択の基準は、政策案の重要性・適切性・具体性と利害対立の有無の2項目により、3つのランクに分類しました。

## 5. 事前調査の実施と集計

以前実施した長崎 EST ステークホルダー試行会議において作成された、2050年の長崎市の将来像7項目は以下に示すとおりです。

- ①あらゆる機能を身近に提供できるまちづくり (コンパクトシティ)
- ②目的に応じた公共交通機関の充実
- ③長崎のまちづくりにおける船(舟運)の活用促進

- ④外から人が来たいと思うような魅力ある交通システムを持ったまちづくり
- ⑤物流を含めた交通エネルギー源の大胆な脱化石化
- ⑥所有から所持へ
- ⑦皆が納得できるようなまちづくりプロセスの形成

この将来像を実現するために必要なバックキャストによる「長期的視点からの政策」の提案を、フォーラムに先立ち個々のステークホルダーに行っていました。そして、その結果を集計し、事務局で政策案を3つに分類を行い、当日議論する政策案を作成しました。

## 6. 各セッションの内容

### (1) セッション1 (全体討議)

セッション1では、あらかじめ提案された政策案から議論の対象とする「政策」の選出を行いました。具体的には、事前調査の集計結果をもとに質疑応答を行い、ランク付けに変更があるもの等について議論を行い、さらにセッション2で議論すべき政策について、事務局からの提示案についての質疑応答および承認の作業を行いました。



フォーラムの状況 (セッション1)

### (2) セッション2 (グループ討議)

セッション2では、選定された政策案についての議論 (提言に含めることの是非) を行いました。すなわち、セッション1でステークホルダーが同意した9項目の政策提言案について、Aグループ・Bグループに分かれて議論を展開しました。議論した9項目の政策提言案は以下のとおりです。

- ①公共交通機関にもっと税金を投入
- ②デュアルモード・ビークルによる郊外延伸
- ③自転車・車いす・盲導犬の公共交通機関への持ち込みの容認
- ④浮栈橋を交通の要衝に設定し、スマートカードも使用できる舟運の復活
- ⑤安心して利用できる歩道・自転車道の整備
- ⑥車両導入時のインセンティブについての施策
- ⑦鉄道貨物の有効活用
- ⑧カーシェアリングの推進に向けた検討の開始 (自治体の役割は?)
- ⑨EST 構築のためのNPO 的組織の立ち上げの検討

このセッションでは、全ての参加者の意見を短時間で把握することが求められたため、ワークショップ形式で行いました。つまり、討議前に全てのステークホルダーに賛成・条件付賛成・反対を表明するとともにその理由をカードに書いてもらい、その内容を共有した上で、グループ内で議論を行い最終的な結論を出していくという方法です。

セッション2を終了した段階で、運営事務局が各グループの議論の内容を総括しました。



フォーラムの状況（セッション2）

### （3）セッション3（全体討議）

セッション3では「長崎の地域交通システムに対する長期的な視点を踏まえた対策や政策の提言」をまとめるための議論を行いました。つまり、事務局がまとめたグループ討議における議論の総括をもとに全体会議を行い、それぞれの提言項目を全てのステークホルダーが確認しました。



フォーラムの状況（セッション3）

### 長崎ESTステークホルダーフォーラム提言

長崎ESTステークホルダー会議塾は、2008年12月20日に長崎大学総合研究棟多目的ホールにおいて長崎ESTステークホルダーフォーラムを開催しました。地球温暖化問題など私たちの抱えている地球規模での問題、また私たちの住む長崎の地域の現状などを前提としたうえで、持続可能な今後の長崎の交通の姿を描き出し、いま私たちが進めていかなければならない対策について議論することが本フォーラムの目的です。ステークホルダーは、インターネットによる公募で市民の参加を募集するとともに、主要なステークホルダーの所属する団体や個人に直接参加を求め、行政セクター、企業セクター、市民セクターから26人に集まっていただきました。

長崎ESTステークホルダーフォーラムでは、地球の制約をはじめとする非持続的な諸問題を念頭に置きながら、まず交通問題について50年後の長崎のまちの姿を描きだし、さらにそのようなまちを実現するために私たちが今後10年間に実現しなければならない対策は何かについて議論しました。

50年後の将来のまちの姿は以下の7項目に集約されました。

- ①あらゆる機能を身近に提供できるまちづくり
- ②目的に応じた公共交通機関の充実
- ③長崎のまちづくりにおける船（舟運）の活用促進
- ④外から人が来たいと思うような魅力ある交通システムを持ったまちづくり
- ⑤交通モードの変革による物流を含めたエネルギー源の大胆な脱化石化
- ⑥所有から所持へ

## ⑦皆が納得できるようなまちづくりプロセスの形成

このうち、1番目の「あらゆる機能を身近に提供できるまちづくり」についての対策は、今回集まった交通関係のステークホルダーだけで議論するには範囲がより広大であるので、具体的な対策についての議論の対象から除外しました。しかし、ここに集まったステークホルダーたちが想定しているまちは、「あらゆるまちの機能がコンパクトに集約され、多様なサービスが身近に提供され、そして中心街に賑わいのある長崎のまち」であり、また「観光資源や景観に恵まれ、清潔で安全な長崎のまち」です。

以下に、第2番目以下の項目について50年後の姿の実現を図るためにステークホルダーフォーラムでまとめられた提言を一覧として示します。

### 1. 目的に応じた公共交通機関の充実

- 公共交通機関の間での乗り継ぎや乗り換えの利便性をハード面でも（近接化、バリアフリー、日除け、雨除け等）ソフト面（乗り換え、乗り継ぎ割引等）でも格段に改善する。
- 公共交通機関への自転車の持ち込みについても、その是非を含めたあり方についてのより広範囲の議論を踏まえて検討を促進すべきである。
- 50年後の社会像を視座し、社会の基盤整備として公共交通機関に公的資金を一層投入すべきである。

### 2. 長崎のまちづくりにおける船（舟運）の活用促進

- 通勤及び観光利用の視点から、浮き桟橋を交通の要衝に設置し、長崎ならではの公共的な舟運の復活について検討をはじめてい

くべきである。

### 3. 外から人が来たいと思うような魅力ある交通システムを持ったまちづくり

- 市域外から来た人にも分かりやすく、市民にもより便利な交通表示装置、充実した交通案内ツールを格段に整備すること。その際、国際環境都市長崎を意識して日本語だけではなく、複数の外国語による案内掲示とすること。
- 交通規制等との関係を考慮しながら、安心して利用できる歩道の整備を進めるべきである。また、自転車道整備についても並行して検討すべきである。

### 4. 交通モードの変革による物流を含めたエネルギー源の大胆な脱化石化

- 車両導入時及び使用時の脱炭素化へのインセンティブを与えるのに十分な経済的、規制的な誘導政策（取得税、炭素税、優先駐車等の優遇策）を大胆に推進すること。
- モーダルミックス（基地整備も含む）の観点から、鉄道貨物や船舶輸送の有効的な利活用を行うべきである。

### 5. 所有から所持へ

- 経済的側面も含めた市民の意識改革を進めていく機会を増やし、カーシェアリングの推進に向けた具体的な検討を進めることが必要である。
- 生産販売のビジネススタイルからカーシェアリング、省エネルギー機器等のレンタルや維持管理ビジネスへの変革を推進すべきである。

### 6. 皆が納得できるようなまちづくりプロセスの形成

- 市民が主体になってEST構築を議論して推進していくような場が今後必要である。そのような場は、社会の多様な構成員（ス



テークホルダー)が参加したものであり、行政や政治等の責任ある機関との協働や連携を維持し、ESTだけではなく、他の社会的経済的価値も含めてまちの総体について信頼関係に基づき議論できることが必要である。また、そのような場には世代間の偏りが生じないように、若い人達の参画をもっと促す必要がある。

- まちづくりや持続可能な地域づくりに関する計画や政策作りに、一般市民の参画を積極的に促すことが必要である。



### 長崎 EST ステークホルダー会議塾に参加して

赤城 久仁枝

EST ステークホルダー会議塾は楽しかったです。毎回興味深かったです。学生の方の素晴らしい働きが面白かった。先生方の連携の良さが素晴らしかった。先生方・学生さん以外の方々が「どうしてそんなにはっきりした情報を掴んでるの?」と聞きたくなるくらいに詳しくったり、生き生きしていらしたり・・・素敵でした。

一方、訳の解らない私は「ヘー」とか「フムフム」とか「えっ?」とか「ポーッ」としている間に、12月のフォーラム突入。フォーラムでは、考え方や立場やバックグラウンドの違いで、こんなに異なる意見が出るのかとステークホルダー会議の醍醐味を味わいま

した。

そして、何より興味深く感じているのは自分の心の変化。マイカー通勤だった私が、バスと電車を乗り継いで出勤。帰宅するときは、新調の(歩きやすさが売りの)靴で最終バスに乗り遅れまいと、走ったりもするのです。環境問題が避けて通れないのは必至。一人ひとりの心の変化が未来を大きく左右します。今までご一緒くださった皆様、ありがとうございました。そして、この文章を最後までお読み下さったアナタ!これからは共に参加してくださいと信じています。

### 塾生としての感想

浅岡 哲人

私は、定年退職した隠居後も社会人でありたいとの願望から、「長崎伝習所塾」に参加してまいりました。はじめは「生ごみシェイパーズ塾」、次に「長崎歴史再発見塾」の塾生になりました。

今回「長崎 EST ステークホルダー会議塾」の塾生になるきっかけは、去年の「長崎伝習所まつり」会場において杉山和一先生とお会いしたことでした。入塾してみると、塾生で私が一番高齢者であること、また、本塾への中途からの参加であること、更に、塾生に大学の先生や学生さんが多いことが分かり、果たして皆さんに「ついていけるかな」と一抹の不安がありました。

しかしながら、例会に参加してみると、杉山塾長を初め、早瀬・宮原の両先生、木下さん、天野さんなどのご指導ご鞭撻を賜り、加えて例会後の親睦会での意見交換が有意義でかつ楽しく、時には高齢者の生活体験を吐露したりしながら、どうにか一人前の塾生としてのお付き合いを頂くことができ、心より感

謝しているところです。

さて、本塾での議論のテーマである「持続可能な交通体系のための革新的な政策」に関して多くの勉強をさせて頂きました。お陰で、このことは交通体系のみならず、都市の未来像を見据える課題であるとの認識を持つことができました。

この「革新的な政策」に関して、国政に携わる人々を初め地方の首長が識見を持ち、かつ、市民（国民）の理解・協力が得られるような社会になることを願ってやみません。



平成20年度 長崎ESTステークホルダー会議塾活動実績

日 時	名 称	参加 人数	内 容
平成20年5月8日	伝習所開所式	17人	塾生の自己紹介、当塾の今後の方針についての討議
平成20年6月3日	定例会議	27人	当塾のホームページ開設に関する討議、ESTに関する情報提供
平成20年7月7日	定例会議	26人	ESTのベストプラクティスに関する情報提供、長崎市の二酸化炭素排出量の報告、富山・広島の見察報告
平成20年7月29日	定例会議	22人	長崎市における交通由来の二酸化炭素排出量算出の報告、富山ライトレール・広島電鉄の収支状況の報告
平成20年8月26日	定例会議	24人	長崎税関長による講演「最近の環境行政雑感～環境省での経験から～」、ノーマイカーデーの取組状況の報告
平成20年9月30日	定例会議	24人	ESTフォーラムの実施に関する討議、長崎市における二酸化炭素排出量に関する情報提供
平成20年10月14日	EST 模擬 フォーラム	28人	ESTフォーラムの趣旨説明、議論のための情報提供
平成20年11月4日	EST 模擬 フォーラム	25人	温暖化と将来シナリオに関する情報提供、将来の長崎市の交通像についてのワークショップ形式による討議
平成20年12月3日	定例会議	33人	長崎ESTステークホルダーフォーラム当日の流れを確認、当日の役割分担を決定
平成20年12月16日	定例会議	18人	長崎ESTステークホルダーフォーラムの最終打合せ
平成20年12月20日	長崎EST ステークホルダー フォーラム	32人	ステークホルダーによる政策案の集計結果の提示、討議テーマの決定、政策案を深めるための討議、提言案のまとめ
平成21年1月26日	定例会議	15人	ESTフォーラムの開催報告、成果報告書作成に関する討議、伝習所まつりの内容に関する討議
平成21年2月16日	定例会議	19人	成果報告書作成に関する討議、伝習所まつりの内容に関する討議、今後の当塾の活動方針に関する討議
平成21年2月25日	定例会議	16人	成果報告書の内容に関する討議、伝習所まつりの内容および役割分担に関する討議

## 長崎ESTステークホルダー会議塾

塾長	杉山 和一				
1	赤城 久仁枝	21	野中 哲也		
2	浅岡 哲人	22	濱口 健人		
3	天野 充	23	早瀬 隆司		
4	井手 雅子	24	平野 隆史		
5	今村 正吾	25	古江 晃一郎		
6	植村 愛	26	松島 加奈		
7	北山 雅浩	27	松嶋 なぎさ		
8	木下 元洋	28	光武 恒人		
9	金 宗煥	29	宮田 真里絵		
10	隈部 大祐	30	宮原 和明		
11	黒木 圭治郎	31	村山 勇太		
12	佐藤 恵	32	吉田 雅文		
13	陣野 幸茂				
14	副島 千佳				
15	高島 亮				
16	田上 慎太郎				
17	轟 帥				
18	鶴我 知子				
19	程 新忠			事務局員	交通企画課 山口 進
20	長門 富美子				